各教科の変更点

産業教育（専門教科）はこう変わる

指導項目型から資質・能力型へ。職業に関する全教科でAI・データ活用を充実し、産業界との連携も強める方向

更新：2026年11月4日　出典：審議まとめ P100〜P299

ひとことで言うと

ひとことで言うと

専門高校の学びを、AI・データと産業界との協働で強める

1. 「指導項目」を並べる今の書き方を抜本的に見直し、「何ができるようになるか」の資質・能力ベースに改めるべきとされた。

2. 「課題研究」は履修学年を示さず、探究の配慮事項中心の内容とする方向。産業界との持続的な連携や、外部人材からの評価材料も取り入れることが示された。

3. 職業に関する全ての教科でAI・データサイエンス等の学びと経営・ビジネスの学びを充実させ、「情報Ⅰ」の安易な代替が行われないよう解説の例示を見直す方向。

校種ごとに、やさしく解説

高校 産業教育（専門教科）はどう変わる？

やさしく言うと 農業・工業・商業など、専門高校で学ぶ専門教科の話です。
学習指導要領の書き方を「何ができるようになるか」が分かる形に改める方向です。
職業に関する全ての教科で、AIやデータサイエンスを使った学びと、経営やビジネスの学びを充実させる案です。産業界との連携は、出前授業などの単発で終わらせず、続く協働にすることが求められています。課題研究も、学校が柔軟に組めるよう見直す方向です。

01 「何ができるようになるか」で書き直す

今の専門教科は「〔指導項目〕を指導する」という書き方です。これを、「何ができるようになるか」が分かる資質・能力ベースの書き方に、抜本的に改めるべきとされています。観点の「知識及び技術」も、ほかの教科と同じ「知識及び技能」にそろえる方向です。 P288

教室では、たとえば：たとえば科目のシラバスを、扱う項目の一覧からではなく、「この科目を終えたら何ができるか」から書き直すことが考えられます。

02 全ての専門教科でAI・データの学びを

職業に関する全ての教科で、AIやデータサイエンスを使った学びを充実させる方向です。専門教科の情報に関する科目は、「情報Ⅰ」の学びを土台に、専門分野での活用を深めます。専門教科の「情報」には、「データサイエンス、AI」の分野を新しく設ける方向です。 P289 P294 P296

教室では、たとえば：たとえば農業科で、センサーで集めた温度や水分のデータを整理し、栽培の工夫を考える実習が考えられます。

03 産業界との連携を「単発」から「続く協働」へ

産業界との連携は約90%の専門高校で行われています。一方で、数回の出前授業や講演にとどまるなど、深さに課題があるとされました。今後は目的を

共有し、計画から評価まで一緒に進める続いた関係の中で、理論と実践を行き来することが大切とされています。 P287 P298

教室では、たとえば：たとえば地元企業と年度初めに目標を話し合い、課題研究の途中と最後に助言や評価をもらう形にすることが考えられます。

04 課題研究の見直しと、評価の工夫

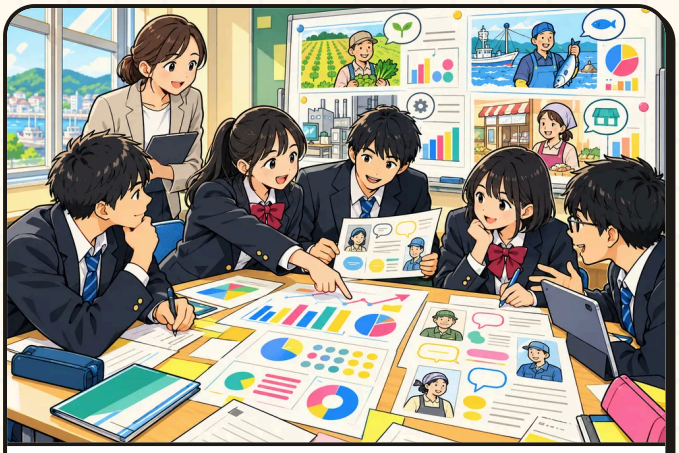
「課題研究」は、解説で履修学年を示さず、学校が柔軟に組めるようにする方向です。導入の段階で、実社会の課題を探究する活動を入れるべきとされています。評価では、レポートや作品などのパフォーマンス課題を取り入れ、外部の人からの評価材料も生かす方向です。 P289 P299

教室では、たとえば：たとえば作品の評価で、完成品だけでなく途中の記録や口頭での説明も組み合わせます。生徒自身が考えたかを確かめる工夫です。

小・中・高で10秒

小学校	—
中学校	—
高校	全専門教科でAI・データ活用と経営の学びを充実。課題研究は履修学年を示さない
高校の科目	必要に応じ科目を統廃合。情報科にAI等の分野

産業教育（専門教科）の授業アイデア（次期を先取り）



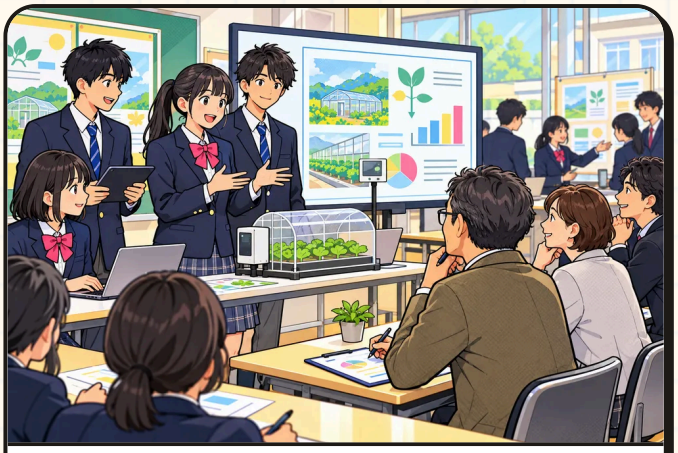
高校

高校1・2年（課題研究の導入段階）

地域産業の課題をデータで見つける

課題研究の入口で、実社会の課題を科学的な根拠から見いだします

手順を見る →



高校　高校3年（課題研究）

外部の専門家と評価規準を共有する発表会

評価規準を事前に共有し、専門家の意見を評価材料の一つとして生かします

手順を見る →



高校　高校2年（商業科の例）

AIで傾向をつかみ、要因は自分で考える

販売データの分析にAIを使いつつ、要因の考察と根拠の確認は自分で行います

手順を見る →

主な変更点（審議まとめより）

高 専門教科による「情報Ⅰ」の代替を見直し（安易な代替をしない）

今は多くの職業系の専門学科で、各教科の情報に関する科目を履修して「情報Ⅰ」の代わりにしています。代替のしくみそのものは妥当としつつ、情報活用能力を大きく伸ばす今回の改訂の中で安易な代替が行われないよう、解説の「代替することが考えられる」という例示を見直し、代替する場合の配慮事項をさらに示す方向です。教育課程全体と、情報科の先生の配置や時間割にも関わる変更です。 P289 P100

高 学習指導要領の書き方を「指導項目」ベースから資質・能力ベースへ

現行の「〔指導項目〕を指導する」という書き方を抜本的に見直し、「何ができるようになるか」が分かる資質・能力ベースの書き方に改めるべきとされました。これに合わせて、専門教科で使ってきた観点「知識及び技術」を、ほかの教科と同じ「知識及び技能」にそろえる方向です。内容は「知識・技能」と「思考・判断・表現」を並べて示す表の形（並列パターン）で整理する案です。年間指導計画やシラバスの組み立て方に影響します。 P288 P293

高 「課題研究」の見直し：履修学年を示さず、導入段階で実社会の課題を探究

高 科目の統廃合・内容の精選と、指導内容を選べる構造

各教科の領域・分野の学びのつながりを整理して解説などで

原則履修科目の「課題研究」は、解説で履修学年を示さないことにし、学校が教育課程を柔軟に組めるようにする方向です。探究課題や指導内容は各学校の特色に任せ、内容は「指導事項」中心から、探究を通して身に付ける資質・能力や配慮事項中心に改める方向です。また導入段階で、実社会・実生活に関わる課題を探究する活動を取り入れるべきとされました。産業界との連携が確実に行われるよう、扱い方を明示する必要があるとしています。 P289 P298

示し、必要に応じて科目の統廃合と内容の精選を行うとしています。学校の実態に合わせて柔軟な教育課程が組めるよう、科目の特性に応じて指導内容を選べる構造にする方向です。原則履修科目（基礎的な科目）で基礎を学び、専門的な学習を経て「課題研究」等で深めるという今の考え方は続けることが必要とされました。 P288 P294

高 職業に関する全ての教科でAI・データサイエンス等を活用した学びを充実

職業に関する全ての教科で、AIやデータサイエンスなど情報技術を活用した学びの充実を図るとしています。各専門教科の情報に関する科目は、「情報Ⅰ」の学びを土台に、専門分野への応用や課題解決・価値創造の視点から内容を充実させる方向です。目標の案でも「科学的な根拠に基づいて探究」することを新たに

高 全教科共通で経営管理・ビジネスの学びを充実、共通内容は基礎的な科目で

農業経営の法人化や六次産業化、看護・介護分野のグローバル化などを背景に、職業に関する全ての教科で、関連の深い科目を中心に経営管理やビジネスに関する内容の充実を図るとしています。また、産業教育で育てるべき資質・能力をふまえて各教科で共通に指導すべき内容を整理し、各教科の原則履修科目

示しています。一方で、AIが考える
ことを止めてしまう、著作権の
課題があるなどのリスクにも
十分配慮するよう求めています。
P289 P291 P294 P298

（基礎的な科目）で扱うことと
すべきとされました。 P289 P294

高 産業界との連携を「単発」から「持続的な協働」へ

産業界との連携は約90%の
専門高校で行われていますが、
数回の出前授業や
講演にとどまるなど深さに課題が
あるとされました。今後は、目的や
ビジョンを共有し、計画から
評価まで一貫した持続的な関係の
中で理論と実践を行き来することが
重要とされ、「課題研究」などで
扱い方を明示する必要があると
しています。コミュニティ・
スクールやコーディネーターの
配置、オンラインで遠くの専門家の
助言を受けることなども
挙げられています。
P287 P289 P298

高 評価の改善：パフォーマンス課題と外部人材からの評価材料

ペーパーテストだけでなく、
レポート、発表、話し合い、作品の
製作などのパフォーマンス課題を
使った評価を取り入れることが
重要とされます。AIを使った
成果物でも生徒自身が考えたかを
確かめるため、作成過程の評価や
口頭試問・プレゼンテーションを
組み合わせることが
考えられています。産業界などの外部
人材からの評価材料も積極的に
加味しますが、最終的な責任は
教科の担当教員が持ち、
評価規準を事前に共有することが
前提です。 P298 P299

高 ホームプロジェクトを授業時数に充てる規定を削除する方向（総則）

高 教科ごとの主な充実点（情報科に「データサイエンス、AI」分野を新設など）

現行の総則では、
ホームプロジェクトについて
各教科・科目の授業時数の10分の
2以内を充てることができると
していますが、この規定を削除する
方向が示されました。必要な
場合は、関連する科目や学校外の
学修の単位認定などで単位として
認めるとしています。
ホームプロジェクトを行う
教科・科目の時数の組み方に
関わります。 P100

農業はスマート農業やAI・
データ活用、経営感覚、商業は
企業のDXや財務管理・
コンサルティング、水産は
スマート水産業や
マリンサイエンス、工業は
ロボットとの協働や脱炭素のもの
づくりなどの充実を図ると
しています。家庭は
ホームプロジェクトや
学校家庭クラブ活動をより探究的な
活動に位置付け直し、看護は科目の
内容を看護の主要概念で組み直し、
福祉は介護テクノロジーや
権利擁護などを充実させる方
向です。情報は「データサイエンス、
AI」の分野を新たに設ける方向で
科目構成を整理し直す方向です。
P294 P295 P296 P297

今からできる準備

- [ ] 今すぐ 担当科目のシラバスを、指導項目の並びから「この科目で何が
できるようになるか」が分かる書き方に試しに書き直します。知識・技能と思考・判断・
表現を並べて書くと整理しやすくなります。 P288 P293

- [ ] 今すぐ 実験・実習や資格取得の指導が、知識・技術の習得や試験対策だけで
終わっていないかを見直し、職業人として身に付けたい資質・能力と結び付けた
展開にします。 P288 P289

- [ ] **告示まで** 課題研究の導入段階で、実社会・実生活に関わる課題を探究する活動を計画します。解説で履修学年を示さない方向をふまえ、課題研究より前の学年から探究を積み重ねられるかを学科で検討します。 P289

- [ ] **告示まで** 産業界との連携を一覧にし、単発の出前授業・講演にとどまっているものと、目的を共有して計画から評価まで一緒に行っているものを分けます。持続的な関係に育てる連携先を1つ選びます。 P287 P298

- [ ] **告示まで** 「情報Ⅰ」を専門教科の科目で代替している学科は、安易な代替をしない方向をふまえ、代替の理由と内容を点検し、情報科の教員配置や時間割への影響を見通しておきます。 P100 P289

- [ ] **先行実施まで** 外部人材から評価材料をもらう場合の手順を決めます。評価規準を事前に共有し、最終的な評価の責任は教科の担当教員がもつことを確認します。 P299

- [ ] **先行実施まで** 各科目で、AI・データサイエンスを使う場面（問いの設定、計画の立案、振り返り）と、思考の停止・情報の信頼性・著作権などのリスクを指導する場面を計画します。 P294 P298

- [ ] **全面実施まで** レポート・発表・作品製作などのパフォーマンス課題の評価に、作成過程の確認や口頭試問・プレゼンテーションを組み合わせる方法を学科でそろえます。 P298 P299

産業教育（専門教科）とAI

職業に関する全ての教科でAI・データサイエンスを

地元産業でもDXの余地が大きいことなどから、職業に関する全ての教科で、AIやデータサイエンスなど情報技術を活用した学びを充実させるとされています。AIやデータサイエンスを各教科の学びを深める手法として、配慮事項を示すことが重要とされています。 P288 P294

専門教科「情報」に「データ・AI分野」

専門教科情報科では、新しい分野として「データサイエンス、AI」に関する分野を設ける方向で科目構成を整理します。 P296

AI活用のリスクへの配慮

AIなどは考えを広げたり深めたりできる一方、生徒の思考を止めてしまい、かえって深い学びの妨げになる可能性もあります。集めた情報の信頼性・妥当性を吟味すること、AIが作った文章や画像に著作権などの課題が生じる場合があることにも十分配慮が必要とされています。 P298

評価：作成過程や口頭試問も

論述やレポート、作品などでAIを使った場合でも、生徒自身が十分考えたかを確かめるため、作成過程の評価を加えたり、口頭試問やプレゼンテーションを組み合わせたりすることが考えられるとされています。 P298 P299

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜産業教育（専門教科）の変更点（小・中・高すべて）｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

授業でのヒント

- 問いの設定・計画・振り返りの場面でAIやデータサイエンスを使い、深い学びにつなげる（根拠P298）
- 成果物の評価では作成過程を見たり、口頭試問・プレゼンを組み合わせたりする（根拠P299）
- 商業の市場調査などで、生成AIを使ってデータの傾向や要因を考察する（根拠資料編m4 P56）

AI×授業 特集を見る

現行⇔次期 新旧比較

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

学習指導要領の内容の示し方

現行

各科目の内容が「〔指導項目〕を指導する」という指導項目ベースで示されている（例：建築構造「（１）建築構造の概要」）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**何ができるようになるか**」の視点から**資質・能力ベース**の書き方に改めるべきとされた。「知識・技能」と「思考・判断・表現」を並べた表の形で示す案。

P288 P293 ※工業「建築構造」の現行と改善イメージの例は資料編m4 P69（産㉑）

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜産業教育（専門教科）の変更点（小・中・高すべて）｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

資質・能力の観点の名前

現行

専門教科では「知識及び技術」という観点を使ってきた。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**知識及び技能**」とし、三つの柱を「知・技」「思・判・表」「学びに向かう力」の表現に整理するべきとされた。

P288

「課題研究」の位置づけ

現行

実践的・探究的な学びは主に卒業年次の「課題研究」で行われ、内容は「指導事項」ベースで示されている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

解説で履修学年を示さず、探究課題・指導内容は各学校に委ねる方向。内容は身に付けるべき資質・能力や**配慮事項**中心とし、**導入段階**で実社会・実生活の課題を探究する活動を入れるべきとされた。

P288 P289 ※現行と改善案の科目配置イメージは資料編m4 P68（産⑳）

専門教科による「情報Ⅰ」の代替

現行

「同様の成果が期待される場合」に代替が認められ、解説では各専門教科の情報に関する科目で「情報Ⅰ」と代替することが例示されている。多くの専門学科で代替が行われている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

代替の規定自体は妥当としつつ、**安易な代替**が行われないよう解説の例示の記述を見直し、代替する場合の**配慮事項**をさらに示す方向。

P289 P100

ホームプロジェクトの授業時数への充当

現行

総則で、ホームプロジェクトについて各教科・科目の授業時数の10分の2以内を充てることができるとされている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

この**規定を削除**し、必要な場合は関連する科目や学校外の学修の**単位認定**などで単位として認める方向。

P100

産業界等との連携

現行

約90%の専門高校で取り組まれているが、数回の出前授業や講演にとどまるなど、単発的で学校全体として持続的になっていない例がある。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

共通の目的を共有し、計画から評価まで一貫した**持続的**な協働関係をめざす。「課題研究」などで**取扱いを明示**する必要があるとされ、**外部人材からの評価材料**も積極的に加味する方向。

P287 P288 P298 P299

産業教育の目標（思考・判断・表現）

現行

これまで産業教育では「倫理観」や「合理的」という要素を重視してきた。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「倫理観」「合理的」は引き続き示しつつ、データを集めて分析し考察することを前提に「**科学的な根拠に基づいて探究**」することを新たに明示し、「**合理的かつ創造的**に解決する力」を養うとする目標の案が示された。

P291 ※目標・見方・考え方の素案と各教科の見方・考え方イメージは資料編m4 P49（産①）

専門教科「情報」の科目構成

現行

本文に現行の情報科の科目構成の記述がないため current は空欄

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**データサイエンス、AI**」分野を新設する方向で科目構成を整理し直す。「情報システム・構築分野」「情報デザイン・社会表現分野」「データ・AI分野」それぞれに「**基礎的な科目群**」と「**統合・発展科目**」を新設して構造化する案。

P296

現行の学習指導要領・解説の原文（公式PDF）は資料室にまとめています。

高校の科目構成

原則履修科目（基礎的な科目）で基礎を学び、専門的な学習を経て「課題研究」等で深める現行の科目構成の考え方を継続することが必要とされた（P288）。そのうえで必要に応じて科目の統廃合と内容の精選を行い、科目の特性に応じて指導内容を

選べる構造にする方向（P288、P294）。教科別には、専門教科「情報」で「データサイエンス、AI」分野の新設と、3分野ごとの「基礎的な科目群」「統合・発展科目」の新設（P296）、看護で科目の内容を看護の主要概念で再構成（P296）などが示されている。具体的な新科目名は本文に示されていない。

授業時数・単位

産業教育の節に標準単位数の変更の記述はない。「課題研究」は解説で履修学年を示さないこととする方向（P289）。総則では、ホームプロジェクトに各教科・科目の授業時数の10分の2以内を充てられる規定を削除する方向（P100）。

校種ごとのページ・図解アニメ

高校の先生へ　図解アニメで見る

ほかの教科も見る

国語　社会・地理歴史・公民　算数・数学　理科　理数　生活
芸術（音楽・図画工作・美術・書道等）　家庭　情報・技術、情報　体育・保健体育　外国語
産業教育（専門教科）　道徳　総合的な学習の時間／総合的な探究の時間　特別活動

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。